子どもたちの声

・震災による被害、そして、復興の現状が分かった。柴栄水産の水産業・復興への思いがよく伝わった。（中学１年）
・まだまだ震災の爪あとが残っているところはあるが、それを少しだけでも残すことが大事だと思った。（小学６年）
・震災は、自分が体験したことよりも、もっと厳しかったんだなあと思った。（中学３年）
・人が少ない中でもがんばっている人が多くいることに感動しました。（高校１年）
・自分は当時、郡山に住んでいて、ゆれは体験したが、津波などはよく知らなかった。実際に震災を体験した方に話を聞くことで分かることもある。池上先生の一言一言が自分や他の人の心を動かす。また、自分が作成した新聞にご好評をいただき感謝。（中学３年）
・見出しを考えるのが難しかったけど、班の人と協力でき、よかった。これからは、もっと情報と向き合い自分の考えをもちたい。（小学６年）
・請戸小学校へ取材に行って、後世へ残していくという言葉に興味をもった。（小学６年）
・相手から自分の考えている質問の回答をしてもらうのがとても大変だと知った。池上先生が長年培ってきた知識から的確なアドバイスを得ることができた。（高校１年）
・パソコンで文章を考えるのも大変でしたが、見出しを考える方がとても大変でした。でも先生やOGの方が直してくださってとても上手に文章を書けました。（小学５年）
・人とのつながりの大切さ、震災の経験を伝えていくことの大切さを感じた。（小学６年）
・相手から聞きたいことを引き出す難しさが分かった。ジャーナリストとしての視点や情報を正確に伝える上で大切なことが分かった。新聞をまとめるという機会はなかなか無いので、貴重な体験だった。情報を変えずに言葉を変えて伝えることが難しかった。（中学２年）
・震災体験を取材し、自分が今まで感じていなかったこと知らなかったことや思いを知り、改めて自分が福島で取材できていることに感謝し、風化させないことをしなければいけないと思いました。表面的に見ていたニュースでしたが、もっと深く考えなければならない真実があることを知りました。また、ジャーナリストについてもたくさん教えてくださり、理解が深まりました。（中学１年）
・取材といっても一方的なものではだめで、対話することが大切だと思った。小学生、中学生の下学年の子たちが多く、被災時に自分より幼く記憶も薄い子たちが震災や災害に対して関心を強く持っていることに感心した。自分より幼い子たちから学ぶこともとても多く、非常に貴重な経験だった。（高校２年）
・震災は、伝えていかなければならないと思った。（中学２年）
・自分の思っていたより、被害がすごいのだなと思った。（小学５年）